

経営体の概要

- ・所在地：北海道今金町
- ・経営体名：檜山北部農業振興協議会
- ・栽培作物・作付面積：秋まき小麦 1.7ha
(令和6年6月現在)

導入技術

ロボットトラクタ（ヤンマーアグリジャパン YT4104）
 可変施肥端末（トプコン製 X25）
 GNSSアンテナ（トプコン製 SGR-1）
 可変施肥ブロードキャスト（ビコン製 ROEDW）
 可変施肥対応ブロードキャスト端末（ビコン製 IM-Tellus）
 ドローン（eBeeSQ）、Crop Spec（トプコン製）
 施肥：使用ソフトウェア：i-Farming（トプコン製）



Crop Specによるセンシング
S1値マップ



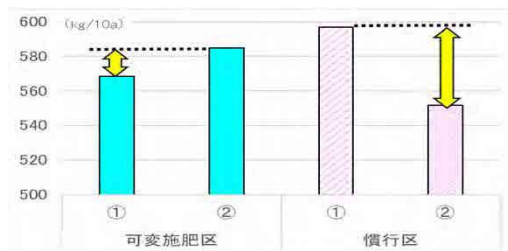
ロボットトラクタ & Crop Specによる
可変施肥実施

導入経緯

- 今金町では、国営の基盤整備が実施されており、整備後のほ場合筆による生育ムラが課題であった。
- そこで、R1年のセンシング結果を基に、R2可変施肥の効果検証を行った。

取組の特徴・効果

- センシングデータからNDVI値マップを作成することにより、ほ場内での生育の差を一目で確認できた。
- この結果を受け、ほ場内の生育ムラへの対応として、越冬前にセンシングを行い、起生期の施肥マップを作成し、可変施肥を行った。幼穂形成期と止葉期の追肥においても、センシングしながら可変施肥を行い、（Crop Specを活用）効果を確認した。
- R1年の8月のNDVI値と、可変施肥を実施したR2年のNDVI値を比較すると、可変施肥を行ったR2年の方が、ほ場の生育ムラは改善されていた。



●R2年の収量

可変施肥区の方が、ほ場内の地点ごとにおける収量差は小さかった。
生育ムラ対策に効果あり。

- 今後、センシングデータから、可変施肥の上限・下限の散布量の検討が必要と思われる。